

2022 年 11 月 1 日
日本労働組合総連合会
会長 芳野 友子

はじめに

- ・ 春季生活闘争の方針策定に向けた重要な場に、今年も多くの方にご参集いただいたことに感謝します。
- ・ 本日の基調講演は東京大学大学院経済学研究科の渡辺教授、連合総研の市川所長のお二方からいただきます。ご多忙の中ご快諾いただいたお二方にまず御礼申し上げます。ありがとうございます。
- ・ 現在我が国は経済的な大きなリスクをかかえています。円安、エネルギー・食料品価格の高騰、そして世界経済にも景気後退の懸念があるところ、日本が今後どのような道を辿るのか、まさに岐路にたたされています。この岐路で、私たち労働組合がどのような未来を展望するのか、何をなすべきか、これがまさに今後を方向づけると考えます。今次闘争が担うべき重大な意義、そして社会の期待を感じています。そうした中、私たちは未来をつくるべく 2023 春季生活闘争に臨む所存です。
- ・ 「未来づくり春闘」とした昨年度は「未来をつくる、みんなでつくる」というスローガンを掲げ連合一丸となって粘り強い交渉を展開しました。現場での懸命な交渉の成果もあり、「人への投資」の重要性について、経営側との共通認識が深まった組合も少なくなかったと認識しています。回答結果をみても、賃上げ獲得組合数は 2014 闘争に次いで高い水準。定昇相当分込みの賃上げ率も 3 年ぶりに 2%を超えました。労働組合が社会を動かしていく「けん引役」として一定の役割を果たすことができたと受け止めています。
- ・ 先月の第 13 回中央執行委員会で「基本構想」を確認しました。本日の討論集会ではその「基本構想」をベースに、多くの方からご意見をいただいて方針策定へとつなげていきたいと思っておりますので、活発なご発言・ご議論をお願いします。「基本構想」の内容については後ほど提起があるので、ここでは 2023 春季生活闘争を取り巻く情勢も含め、私の見解を申し上げます。

格差是正・分配構造の転換

- ・ まずもって、社会のセーフティネットの脆弱さや貧困や格差の拡大といった、日本の社会・経済の構造的課題はコロナ禍以降一層あらわになりました。社会全体としての分配のゆがみは早急に正していかなければなりません。非正規雇用やフリーランスで働く人など、弱い立場におかれた人が、人一倍大きなしわ寄せを受ける構造そのものを変えていかなければなりません。
- ・ コロナ禍の影響は、いまなお多くの産業に影を落としています。連合を構成する各産別、産業ごとに状況は大きく異なりますが、働く者の将来不安を払しょくし、中

長期的な経済の自律的成長、社会の持続性を実現するためには、人への投資は不可欠です。そのためには、連合としてはもちろん、社会全体が取引の適正化の課題を共有し、サプライチェーン全体で生み出した付加価値が一人一人の労働者にまでしっかりといきわたるよう、適正な分配、価格転嫁をさらに徹底して推し進め、これにより賃上げができる環境が整備されなければなりません。

- ・私たちは各々の違いを認め合いながらも、働く者の連合として大きな旗を掲げ、格差是正と分配構造の転換にみんなで足並みを揃えて取り組む。2023 闘争の力強い推進はその先の未来に向かう第一歩です。

物価・経済対策

- ・昨年来の急激な物価上昇や円安は、働く仲間の生活に大きな打撃を与えています。政府は先週総合経済対策を閣議決定しました。具体的には電気・ガス料金の負担軽減、観光需要喚起、デジタル関連への投資促進、子育て支援等への対策などです。とりわけ電気・ガス料金の負担軽減など、直面する生活苦への対策は、もちろん重要かつ必要です。しかし一方で、現下の情勢において社会全体にまん延するムード、定着してしまっているデフレマインドを払しょくし、日本がめざすべき社会のあり方とそこへ到達する道筋を示すことこそが、政府、そして私たち労働組合を含めた社会的パートナーがいますべきことではないでしょうか。
- ・私は政府の「新しい資本主義実現会議」に労働者を代表して参加しています。ここで「実行計画の実施に向けた重点事項」が検討された際申し上げたのは、デフレマインドの払しょくと「経済も物価も実質賃金も持続的に上がっていく新たなステージへと経済社会のあり方を転換していく大きな方向性」を打ち出すべきだということです。政府が進めようとしている労働移動については、労働移動そのものを決して否定はしませんが、そのためにはこれまで以上に重層的な雇用対策や社会的セーフティネットの整備が必要になること、労働者に移動を促すにはまずは「労働者にとって魅力的な産業」にすることが必要です。今後さらに具体的な施策へ落とし込んでいくときには、私たち労働組合と使用者側とが真摯な議論を積み重ねながら一体となって社会的な責任を果たす、その下地となる環境整備に資するようなものとなるように引き続き求めていきます。

ジェンダー

- ・私は昨年 10 月の会長就任以来、連合のすべての活動に「ジェンダー平等の視点」を組み込むと言い続けてきました。これは春季生活闘争も例外ではありません。働く女性が直面する「壁」と「崖」、これは一つ一つの職場において厳然と存在しています。今年の 7 月から女性活躍推進法にもとづく「男女の賃金の差異」の把握と情報公表が、大企業に義務化されたことは大きな一歩ですが、しかしまだまだ遥か道半ばです。総合生活改善の観点から、男女間格差の是正はもちろんのこと、男女平等参画の推進、誰もが活躍しやすい職場づくりなど、広い目配せが必要です。

集团的労使関係

- ・さらに集团的労使関係を広げていくこともまた春季生活闘争に課せられた役割です。これまで述べてきたように、労働組合が果たす役割は極めて大きいです。連合

が旗を振るこの 2023 闘争をみんなで作り上げ、その成果を広く波及させることによって集团的労使関係の輪を勢いよく広げていくことがまさに今求められています。労働組合が先陣を切って存在感を発し、そこに集う仲間を増やしていく。各企業における労使の真摯な協議、相互理解によってこそ、これを実現することができます。

おわりに

- ・2023 闘争はこれまでの単なる延長ではありません。ここは歴史のターニングポイントです。この場に参集された一人ひとりが社会のうねりをつくるリーダーです。そして各企業組合で真摯な交渉を繰り広げる組合員一人一人が、すべての働く仲間の未来をつくる主役です。連合はこの重大な役割を担い、運動をけん引していきます。
- ・連合、一体となって闘おう。ともに頑張ろう！

以 上